

みんな、いっしょにくらしたい

<今月の聖句> わたしの助けは来る。天地を造られた主のもとから。
(詩編121篇1～2節)

しんしんと、ふりつもった雪の上に
あったかそうな、てぶくろが、ひとつ。
ぽとんと、きっとだれかが、おとしていったのでしょうか。
おとななら、ふだん、きづかず、わきを素通りしてしまう場面。
けれども、子どもたちは立ち止まり、想像の翼を広げはじめます。

雪の上のちいさな、てぶくろ。そのなかに
まず、ねずみ。そして、かえる、うさぎ…
どうぶつたちが、どんどんあつまってきて、すみはじめる。
きつねも、おおかみも、やってくる。
かたっぽだけの、ちいさな、てぶくろ。なのに
なぜだか、みんな、中にすみたくてしょうがない。
もういいかげん、はじけちゃう！
でも、やってくる。のっしのっし、ついには、熊が。
おおきなずうたいの、熊にむかって
てぶくろのどうぶつたちは、いったい、なんていうでしょう。
もう無理？ やめといて？ また今度？ あっち行って？
いいえ。そんなことどうぶつたちはいいません。こういうのです。

「しかたがない。でも、ほんの、はじっこにしてくださいよ」

どこかで聞いたことがあるでしょう。そう、絵本『てぶくろ』のお話。
この民話が生まれたウクライナは、おそらくまだ冬のさなかでしょう。
ところで、断られなかった熊はこの後、どうやって小さなてぶくろの中
にはいったのでしょうか。その様子は、絵でも文でも、ずっとないしょ。
でも、ないしょ、でいいのです。子どもたちなら、きっと想像できるから。
みなさんも絵本をかこんで、こんど、子どもたちと話してみてください。

(つくし保育園園長 つだかずお)

<イースター礼拝のご案内>

4月17日日曜日 あさ10時30分 だいで教会
懐かしい讃美歌、聖書のおはなし。初めての方を歓迎します
子どもやご家族と一緒に、楽しく明るい礼拝を